

歯学教育学学修評価特論

Advanced Course of Class Assessment for Dental Education

キーワード

- ① 授業評価の目的
- ② 客観的授業評価法
- ③ 教学
- ④ PDCA
- ⑤ 授業改善

授業概要

歯学教育における授業評価の目的や客観的評価方法に関する基本的な知識を修得することを目的として開講する。授業評価が単なる学生評価のみを目的として行われるものではなく、授業科目の設定や開講順序の妥当性に関する評価、授業内容の評価や改善方策の立案、授業のアウトカムに対する評価などを含んだ複合的な目的に基づいて行われるものであることについて学修する。また、学修した内容を基盤として授業評価システムを構築し、授業評価とIR分析を行い、授業改善方策の立案に参画することにより体験的な学修を行う。

授業科目の学修目標

授業評価の目的・客観的な授業評価法などの知識を海外の現状と比較しながら修得する。また、学内において学修評価システムを構築し、実際の授業評価・IR分析を行うことができる。最終的にはPDCAを回すような授業改善プログラムの立案（報告書の作成）を行うことを目標とする。

授業計画

- ① 授業評価の目的や各種客観的な授業評価法について海外の文献を収集・整理し、説明することができる。 5コマ 二瓶智太郎
- ② 学修評価システムを構築することができる。 5コマ 二瓶智太郎
- ③ 実際の授業評価を行い、IR分析を行うことができる。 10コマ 二瓶智太郎
- ④ PDCAに準じて各種改善を行い、報告書を作成することができる。 10コマ 二瓶智太郎

教科書および参考書

大学のIR Q & A 中井俊樹ら編（玉川大学出版）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

海外の文献を理解するため、基本的な教育用語の英単語を事前にマスターしておくこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 授業評価の目的や各種客観的な授業評価法について説明できる。
- ② 学修評価システムを構築できる。
- ③ 実際の授業評価を行い、IR分析できる。
- ④ 授業改善に関する報告書を記述できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	40%	0%	20%	20%	20%

評価の要点

- ①に関しては口頭試問で評価する。
- ②と④の学修評価システムや最終的な報告書はレポートして評価する。
- ③の実際の授業評価・IR分析は、ポートフォリオとその他（エクセル分析などのプロダクト）

理想的な達成レベルの目安

60点以上